

京都

公益社

本社/烏丸線 221-4000

京都総局 〒604-8101 中京区御池通

柳馬場角 075(211)335 fax (211)833 mail:kyoto@asahi.co.jp

学研都市支局 0774(63)388 fax (63)385

舞鶴支局 0773(76)555 fax (78)905

購読のお申し込み 0120-33-0843 (7:00~21:00)

購読・配達のご用は 075(223)1011 (10:00~17:00)

一土・日・祝除く 075(254)821 広告のご用は 075(602)845

折り込みは 075(602)845

デジタル版に 京都特集ペー

朝日新聞デジタルで特集「京都をみる・あるく」を発信中 http://www.asahi.com/culture/kyoto\_sp/

ほめはしませ

があるからね

きながら、息を

ウインドを誇らし

お盆を迎えた。いまや風物詩となった京都五山送り火だが、本来はお盆に帰ってきたお精霊(しょうらい・しょうらい)さんを冥界に送る宗教色の強い行事だった。送り火のある16日を前に、その歴史の一端に触れる機会を得た。

古都ぶら

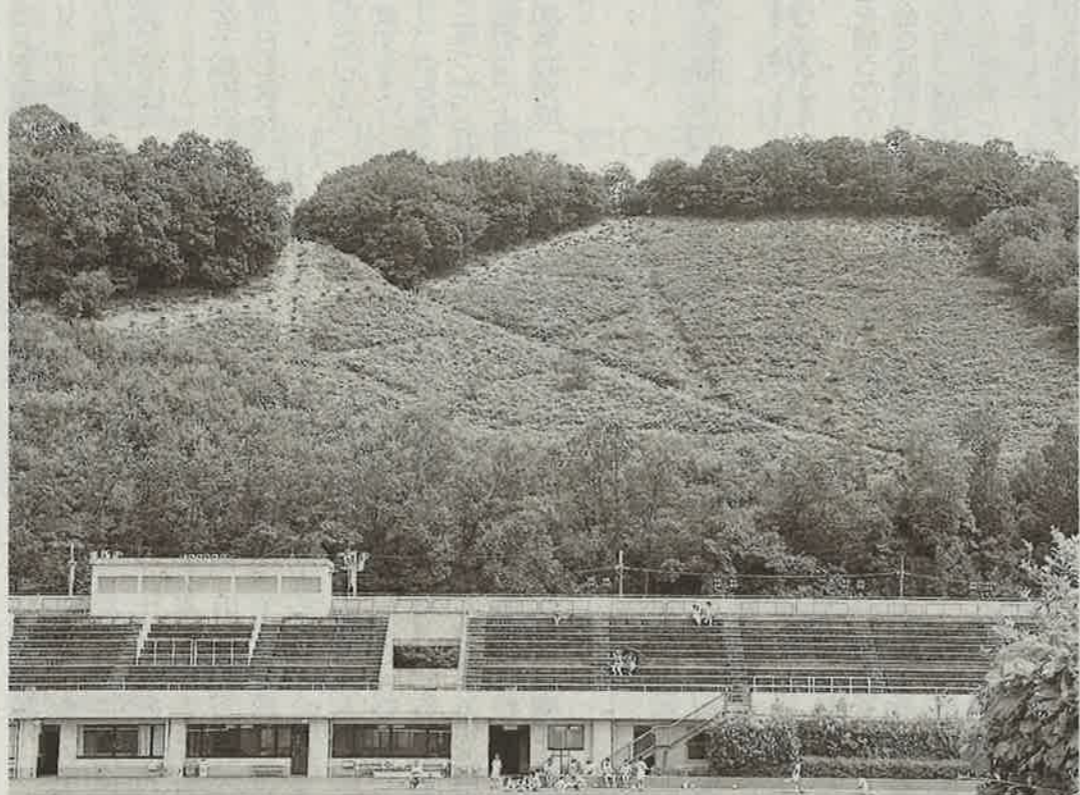
五山送り火



京都五山送り火は、東山如意ヶ嶽(左京区)の「大文字」、松ヶ崎西山・東山(左京区)の「妙法」、西賀茂船山(北区)の「船形」、金閣寺付近大北山(北区)の「左大文字」、曼荼羅山(右京区)の「鳥居形」の五つからなる。8月16日夜、この順番で点火される。

「妙法」は、保存に取り組み「松ヶ崎立正会」の会員とその親族が管理する。毎年送り火前に松割木を担いで松ヶ崎西山へ登り、火床をつくる。11日、同会にお願いし、特別に山頂を吹く風が心地良い。

お盆の風物詩 由来は



宝が池公園運動施設から見た妙の字(左京区)



六波羅蜜寺の万灯会。大の字に並んだろうそくに火がともされている(東山区)

午後8時に大文字に点火され、その後妙法、船形、左大文字、鳥居形の順に5分間隔で点火される。妙・法以外の送り火では、願い事などを記した護摩木の奉納ができる。300円。受け付け場所と時間は次の通り。大文字=銀閣寺門前(左京区)15日正午~午後8時、16日午前6時~午後2時

「妙」と「法」の送り火が始まった時期は異なる。山の本もとにある湧泉寺の寺伝によると、妙の字は1306年、松ヶ崎村や妙泉寺(現・湧泉寺)が天台宗から日蓮宗に改宗した際、教えを広めた僧日像により始められたとされる。この頃から扇を持つ踊る「題目踊り」が同寺で始まったといわれ、現在も続いている。法の字が造られたのは17世紀に入ってからとされている。

松ヶ崎立正会の会員は、送り火が終わると急いで帰宅し、浴衣に着替えてお寺に向かう。題目踊り、江戸時代から続く「さし踊り」を踊るためだ。京都市文化財保護課の村上忠喜係長(55)によると、室町から江戸時代ごろにかけて五山送り火が始まると、市内中心部では、いわゆる盆踊りはほとんど行われなくなったという。「霊を送り出す行事が、比較的小規模な盆踊りから、大勢で一斉に見送る送り火へと変遷したのではないか」と推論する。題目踊りはそんな時代の流れにも負けず、7000

線香の香りが漂う中、誦経に耳を澄ましろうそくのきらめきを見つめる。30分ほどで誦経が終わると、御宝印を授かった。災いが降りかからないよう、閻魔大王が力を貸してくれるという。六波羅蜜寺の川崎純性山主(60)は、「民間信仰として続くこうした伝統も、時代の流れで省かれるようになってきている。良き伝統、良きお参りを今後も残していきたいですね」と話した。(橋本拓樹) デジタル版に動画

人生を理解し 歪み伝える

voice

弁護士の大切な仕事に、刑事事件の弁護人としての役割があります。刑事弁護というものは、わかりにくい仕事です。「なぜ悪い人の弁護をするの?」という素朴で深い疑問に向き合わなければならぬからです。

弁護士

石側 亮太さん



かどうか判断するのが刑事裁判です。万に一つも間違った有罪判決を生み出すためのチェックをさせることが、弁護人の役目です。「手続の公正さを守るのが弁護人の仕事です。どんな人であっても、その言い分を尽くさせ、あらゆる角度から事情を明らかにすること、初めて公正な裁判が実現されるのです。例えば、輸送機関や発電所など、大きなシステム

には事故を起こさないための安全装置が絶対に必要です。刑事司法とは、強大な権力を持つ国家が個人を処罰するかどうかを決めるシステムです。その中で、弁護人は安全装置の役割を果たしているということです。ただ、長い間刑事事件に向き合っているうちに、こういう説明だけでは何かが足りないという思いが強くなってきました。「なぜ悪い人の弁護をするの?」という質問には「悪い人」が、異質な世界の住人であるような感覚がどこかに含まれています。異質な存在を非難するのは簡単です。しかし、私たちの社会が「善良な市民」で成り立

◆第2京都版は、しばらく休載し、9月1日付から再開します。

お問い合わせは、電話=03-5148-7255 HP=http://www.bellmark.or.jp メール=toiawase@bellmark.or.jp

支援になります。全国の幼稚園・小・中・高校のうち約2万8000校が参加、いまは公民館や大学、地域社会にも、活動の輪は広がっています。子どもたちの輝く笑顔のために、参加してみませんか。

手軽な支援 広がる輪 ベルマーク教育助成財団